


# インフォグラフィック：金融サービスにおけるオープンソース


回答者の87%が金融サービス業界の将来にとってオープンソースは価値があることに同意。




金融サービス機関からコミットがあるGitHubリポジトリは昨年より43%増加。




回答者がオープンソースソフトウェアに関わる理由の上位は依然として「楽しさ」や「喜び」。



オープンソースの利用は48%の組織で奨励されている。2021年の約2倍。




金融サービスの従業員がオープンソースに貢献する能力は75%増(2021年は20%、2022年は35%)。




OSPOを持つ組織は持たない組織に比べてオープンに貢献を奨励する傾向が約3倍。



生産性を向上させる要因のトップは「オープンソースソフトウェアを利用」「オープンソース標準を利用」、続いて「インナーソース」。




56%は、2021年と比較して所属する組織がオープンソースからより多くの価値を得ていることに同意。




オープンな貢献を禁止している金融サービス組織は70%減少(2021年は20%、2022年は6%)。



OSPOを持つ組織は持たない組織に比べてオープンに利用を奨励する傾向が2倍強ある。



回答者の48%は自分の組織がオープンソースに貢献すべき最大の理由はセキュリティの向上であることに強く同意。2021年の28%から増加。



従業員数1万人超の組織ではオープンソースの利用範囲が大きくAI、ML、データ、アナリティクスでの利用が上位。

